

「第3期江別市子どもの読書活動推進計画（案）」に対する
市民意見募集結果と市の考え方

1 意見募集の結果

- (1) 意見募集期間 平成30年9月3日（月）から10月3日（水）まで

- (2) 計画（案）配置場所 情報図書館（本館、江別分館、大麻分館、豊幌小学校図書室、江別太小学校図書室）、本庁舎情報公開コーナー、大麻出張所、水道庁舎証明交付窓口、教育庁舎、市民会館、江別公民館、野幌公民館、大麻公民館、野幌鉄南地区センター、豊幌地区センター、江別市総合社会福祉センター 計16か所

- (3) 提出いただいた意見
 - 提出者数 3人
 - 意見数 3件

2 第3期江別市子どもの読書活動推進計画（案）に対する意見概要と市の考え方

(1) 考え方の区分

取扱区分	意見の反映状況
A	意見を受け入れて案を修正するもの
B	案は修正しないが、今後の進め方等において積極的に参考とするもの
C	案と意見の趣旨が同様と考えられるもの
D	これまでも取り組んできているもの
E	案に取り入れなかったもの

(2) ご意見の概要と市の考え方

No.	ご意見の概要	ご意見に対する市の考え方	取扱区分
1	<p>計画(案)によれば江別市子どもの読書活動推進計画に基づき、これまでにほとんどの目標を達成し、第3期計画でさらなる推進を設定しています。</p> <p>この中で読書する子供の割合はスマホなどにおけるSNSなどの情報通信手段の多様化などで年々減少していくものと思われます。抜本的な解決策ではないかもしれませんが、可能であればモデル校やモデル地域などを設定し取り組み意欲の向上を図っていくというのも、一つの方策かと思料されます。</p>	<p>ご意見の中にあります、読書する子どもの割合については、計画（案）の第2章 子どもの読書活動の現状と課題の「2 子どもの読書環境の変化」に示すとおり、減少している可能性があるかと認識しています。</p> <p>計画（案）では、学校図書館の読書環境整備をさらに進めるため、小中学校図書館と情報図書館が連携した読書活動に関する会議を開催すると記載しています。その会議では、学校図書館の利活用や整備の取組事例を紹介してまいります。</p> <p>ご意見にありました、モデル校やモデル地域の設定については、今後、庁内の推進委員会で具体的な施策を検討する際に参考にしてまいります。</p>	B

2	<p>私は塾で国語を教えています。読書嫌いの子供さんたちは、おそらく、字づらを読んでいて、全部理解しようとして途中でわからなくなり、挫折する傾向があります。読書というのは、意味がわからない部分はとばして読んだっていいし、詳細はわからないけれど、全体として、なんとな～くわかる、が大事なのです。つまり、精読より多読です。また、親から「本を読みなさい！」といわれて読む本より、自発的に読むようになった本の内容というものは子供の記憶に刻まれます。まずは子供が興味をもつ本と出あうために、図書館などに行く機会を増やすことが親にとって大事なことであり、私は思います。</p>	<p>計画（案）の【推進方策1-1】「家庭における読書活動の推進」の中で、家庭での読書活動を定着させるには、乳幼児期からの読書活動の重要性を伝えながら、保護者が子どもの読書について考える機会の提供が必要としており、いただきましたご意見は趣旨が同様と考えています。</p> <p>ご意見にありました、子どもが本に出会う機会の必要性などの保護者への啓発については、「家庭における読書活動の推進」の取組の中で参考にしてまいります。</p>	C
3	<p>何かと忙しい最近の子どもたちですが、放課後パソコンやスマートフォンに費やす時間から「10分程度読書にあててみる」ということならば実現可能ではないでしょうか。</p> <p>こうすれば学校で10分、家庭で10分なので読書時間は合計20分となり、学校だけの読書の2倍の時間となります。</p> <p>毎日継続すれば素晴らしい効果と言っては大げさかもしれませんが、子どもたちの成長によい影響を与えうることと思います。</p>	<p>計画（案）の基本目標1では、子どもの読書習慣を定着させ、自主的な読書活動を推進するためには、家庭、地域、学校等社会全体で読書活動を推進する取組を進めていく必要があるとしています。</p> <p>ご意見にありました、学校で10分と家庭で10分の継続的な読書を促す取組については、今後、庁内の推進委員会で、学校や家庭で読書活動を推進する具体策を検討する際に参考にしてまいります。</p>	B